

くろ もり 黒森神楽保存会

みや こ (岩手県宮古市)



出演日時：11/1 13:45～ 演目：山の神舞

黒森神楽は、宮古市の黒森神社に伝わる山伏神楽で、旧盛岡藩の沿岸部における廻村巡行じゅんぎょうを今なお継続して行っています。新年を迎えると、神楽一行は黒森神社の神霊を移した「権現様」(獅子頭)を携えて、家々の庭先で権現舞を舞って悪魔祓いや火伏せの祈禱を行います。夜は宿となった民家の座敷に神楽幕を張って夜神楽を演じて、五穀豊穰・大漁成就や天下泰平などの祈禱の舞によって人々を楽しませ祝福をもたらしています。この巡行は宮古市から普代村まで北上する「北廻り」と釜石市、遠野市まで南下する「南廻り」を隔年で行っており、近世初期からその範囲は、変わっていません。

また、現存する隠居権現のうち最古のものは南北朝初期（1300年代前半）であり、次いで文明17（1485）年など24頭が残されているほか、古文書による神楽巡行の記録は延宝6（1678）年まで遡ることができます。

黒森神楽の山の神は、女神と伝えられており、山仕事や狩猟・農耕を守護する神であると同時に、山が船の航海や漁場の目当てになることから漁業者からの信仰も深いものがあります。12人の子を持ったという山の神の本地が語られた後、面を外して激しい跳躍と回転の舞があります。